

特67

371

朝夕神拜畧記

一鶴散人編輯

安豆麻廼舍藏梓

014392-000-7

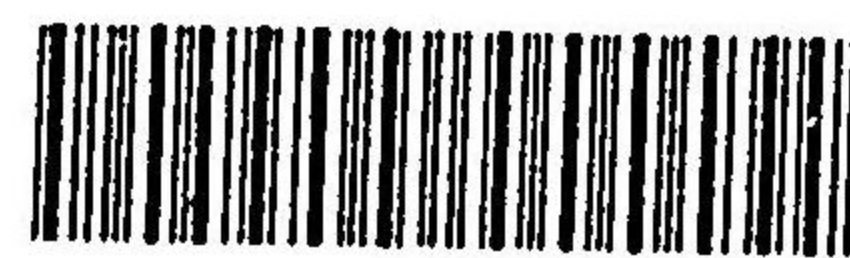
特67-371

朝夕神拜畧記

稻生 穂積/著

M27

ABB-0760



一 此書ハ近頃或人望家ヨリ我等神國ニ生テ受タル人類

民ノ本分トシテ朝夕敬神ノ至誠ヲ奉シ猶屢々歸郷神ヲ拜スル

ノ素願年來アレモ其祭祀祈文ノ何タルヲ知ラス(國史ニ曰禁

中ノ作法先ニ神事後ニ他事且暮敬神ノ念慮懈スヘカラストノ

聖旨モ見在セリ)就テハ其拜辭ヲ請トノ需ニヨリ茲ニ拙文ヲ

撰ビテ祈文ヲ畧記セリ因テ今回ノ序有志諸君ニ頒ント

一 毎朝神拜ノ順序ハ先ツ天照皇大神及産土皇神次ニ仲敬神或ハ

宅内ノ神棚ニ鎮祭ノ諸神ヲ祈リ續テ靈壇ニ齊祀アル尊靈祖先

等ノ御前ニテ拜唱スベシ

一



一本篇ハ職業繁多ニシテ累日拜禮ニ迷惑ノ人ハ其月一日十五日
又氏神ノ祀念日等ヲ以加護ノ恩澤ヲ謝シ猶水旱賊難ノ如キ數
種ノ災害ヲ遁レ猶運福僥倖等ニ遭遇ノ節ニハ必ス神靈ノ冥助
ニ報ヒ賽敬セラルヘシ(最本邦ノ人民幸不幸ノ有無ニ抱ラス
平常ヨリ神祇ヲ尊慕スルヲ實ニ畏ケレ共上ハ天皇陛下ノ叡慮
ヲ窺ヒ恐察スルモ誠ニ深シ)是所謂王法不易ノ大道ニシテ古
今臣民ハ一日モ欠可ラサルノ任務ト云ベシ劍トナレハ今一步
ヲ退テ能以爲ク人タルモノ假令今日無事ノ身ナリトテ明日ニ
ハ如何ナル凶災ノ回來セルモ量リ知サルノ危険体也況ヤ無病
ヲ要シ安寧ヲ祈念スル人ニ於テオヤ 稻生穗積謹誌

祈文目錄

- (一) 皇大神八百万神畧拜辭
- (二) 各市村土産皇神拜辭
- (三) 稻生皇保食大神拜辭
- (四) 諸病人平癒拜辭
- (五) 加和良安産神拜辭
- (六) 同出産后長命神拜辭
- (七) 宅内神棚氏神等拜辭
- (八) 先祖代々靈檀拜辭

「祈まをすともものたよりにあらわせる文のよしあじとがめそな人
神拜心得

一毎朝顔手ヲ洗ヒ口ヲ嚔キ心ヲ靜メテ左ノ畧詞ヲ白スヘシ

○はらへたまへきよめたまへ

但本意ハ麻串ヲ以テ左右左ト三度扱フヘシ其度毎ニ此畧詞ヲ唱スヘシ

一次二拜拍手

拜ム狀ハ二度頭ヲ垂テ兩度手ヲ拍ツヘシ

一次神饌ヲ献供スヘシ

但月並祭日等ノ外毎朝夕ニハ神酒御洗米又清水ノ内一臺ヲ備スル歟或ハ畧スルモ適宜

一次天照皇大神及産土神並信仰神等ノ拜辭ヲ白スヘシ

但家業ノ隙暇無時ハ各畧辭ヲ……………唱ルモ其意ニ任ス

一次二拜拍手前ノ如シ

但平常ハ此畧式ニ準スト雖本儀ノ祭式ヲ爲ント欲セハ當路者若クハ其書ニ寄ルヘシ

「美奈人の乞祈まをす真心を神も安波れと守り麻壽良無

(一) 畧 拜 辭

掛 卷 恐 天 照 皇 大 御 神 及
かけまくも。かしこき。あまてらす。すめれほみかみ。れよひ。

天 神 國 神 八 百 万 大 神 夜 守
あまつかみ。くにつかみ。やはよろつのれほかみ。よのまもり。

日 守 守 給 幸 給
ひのまもり。まもりたまへ。さきはへたまへ。

〔二〕 各市町産土神拜辭

掛 卷 恐 此 里 總領 座 産 土
かけまくも。かここま。このさとをうごはさます〔某〕うふすなの
皇 神 拜 白 皇 神 廣 厚
すめかみを。をろかみまをさく。すめかみの。ひろきあつき
恩賜 受 家 内 安 全 諸 災
みたまものをうけて。いへのうちをやすらかに。もうくのわさ
難 不令在 無夜 無日 彌 益々 惠
はひあらしめす。よとなくひとなく。いやすくくにめぐみ。
令 榮 給 因 月 並 祀 日 及
さかほしめたまふによりて。つきなみのまつりひ。れよひ。
累年 例 祭 都 度 御饌御酒 數 種
としこのためなる。まつりのたひには。みけみき。くさく

幣 物 捧 備 殊 更 献 供 參
のみてくらを。ささげそなへて。とさらぬ。たてまつり。まゐりを
拜 亦 我 家 斯 朝 夕 敬
ろかみ。またわかいへには。かくあしたゆふへに。るやまひ
祀 眞 心 受 座 巳 等 年 老 期
まつる。まこころを。うけまつて。れのれらの。とこれいとさ
至 現 世 死 時 吾 靈 魂
いたりて。うつしよを。まからんときは。あかたまこひは。
幽 世 大 神 等 神 量 隨 天 地
かへりよの。れほかみたちの。みはかりの。まに。あめつち
共 無 窮 貴 神 列 令 入
のむた。とこしへに。たふときかみのつちに。いらこめて。
永 久 惠 幸 給 今 往 先
なかくひさしく。めぐみ。さきはへたまひ。いまもゆくさきも。
樂 嬉 無 變 事 無 盡 事 夜 守
たのしみ。よろこひの。かはるとなく。つくることなく。よのまもり。

日守 守 給 恐 恐 白
ひのまもり。まもりたまへど。かこみかこみも。まをす

同 畧 辭

○うふすなの。すめれはかみ
皇大神

「麻茂理ます我産土の大神をむくい祀るも國のみれきて

〔三〕 稻生大神拜辭

掛 卷 恐 稻 生 里 神路岡
かけまくもかこも。いなふのさとなる。かみちのをか「またの

名 躑躅 山 鎮 座 伊奈富大神 始
なはつしとやまに」とつまります。いなふのれはかみを。はじめ。

又 西 東 座 雙 宮 神 次 大 米
またにしとひかこにます。ふたみやのかみ。つきに。れはよねの。」

宮 殿 齊 靈 記 同 靈 德 座 神 等
みあらかに。いほひまつる。たなとみいつにます。かみたちをも。

拜 白 皇 神 等 現 世 青 人
をろかみまをさく。すめかみたちは。うつとよの。あをひと

草 壽命 續 繼 食物 衣服 住家 等 惠
くさの。いのちつぐ。くひもの。きもの。すむいへらを。めくみ

給 御 祖 神 因 其 御 名 保 食
たまへる。みをやかみなるによりて。そのみなを。ウケモノノ

大神 稱 言 竟 奉 即 田 畑 耕
オホカミと。たへとをへまつらくは。やかて。たはたに。つくり

作 米 麥 大豆 小豆 粟 稗 猶 牛 馬
どつくれる。こめむきまめあつきあはひゆ。なほも。うしむまか

靈 至 迄 靈 幸 皇 神 座
かいこに。いたるまでも。たまちはふ。すめかみに。まじまして。

大古 御 傳 亦 御 名 那 江 大 國 道
ふるきみつたへにも。またのみなを。ナエオホクニミナノ

命 崇 奉 世 殊 皇 神 故
ミコトと。あかめまつりて。よにとなる。すめかみなり。かれに。
我 等 慕 仰 重 記 抑 大 神
われらも。とたひあふきて。いかしみまつれり。そもたはかみは。
著 御 神 歳 以 七 不 思 議 神 驗 太
いちじるき。みいつをもて。ななつの。くじきみじるとの。いたく。
充 備 座 諸 人 更 近 年
みちそなはり。ますとて。もろひとは。さらなり。ちかきとし
まては。まつりとのつかさよりも。とことに。みいのりの。
度々 懸 雨 乞 風 慎 祈 晴
たひくありて。あめをこひ。かせをしつめ。はれをいのり。
又 漁 獵 術 譯 俗 人 疾 病
またすなとりのみち。わけてよのひとは。なやむやまひを。
速 令 平 愈 給 事 祈 記 就 中
すみやかに。いやさしめ。たまはんとて。のみまつり。なかにも。

危 年 相 當 其 人 慈 撫
やくとしてふに。あたれば。そのひとを。いつくじみ。なて
給 危 難 後 福 徳 授
たまひて。わさわひをはらひ。くじきさきはひをさつけて。
猶 深 篤 惠 幸 給 御 恩 頼
なほもふかく。あつくめくみ。さきはへたまふ。みたまのふゆを。
且 暮 禮 奉 赤 心 爲
あしたゆうへに。るやまひまつる。あかきこゝろを。つくさん
盡 其 昔 御 傳 神 樂 日 始
として。そのむかしより。みつたへなるかくらのひを。はじめ。
果 年 春 秋 例 式 祭 日 殊 更
とことのはるとあきとの。ためとの。まつりひには。とさらけ。
大 神 御 前 參 詣 類 種 々 幣 物
たはかみの。みまへに。まわりぬかつき。くさくさの。みてくらを。
捧 備 敬 獻 信 心 機
さしけそなへて。るやまひ。たてまつる。まごころを。あはれと。

思召五穀 敏成 令豊熟
れもほして。いつゝのたなつもの。とくなり。よくみのらごめ。
給我家 職業 令務勵
たまひて。わかいへの。なりはひを。つとめいそごまごめ。
守幸 仰奉 事情由聞
まゆりさきはへ。たまへと。あふさまつる。とのさまを。まごこ
食受給 恐恐 拜奉
めと。うけたまへと。かごこみかごこみも。をろかみ。まつらくと。
白
まをす

同 畧 辭

伊奈富 保食 大神
○いなふ。うけもちの。れはかみ

「美と目繩掛て祈れば千代の秋田の實甲斐安る世根の大神

(四) 病人平癒拜辭

此里 傾座 産土 大神 及 又
このさとを。うごはきます。うふすなの。れはかみ。れよひ。また。
吾歸 依 皇神 殊 大 巳 貴 神
あかたのみとせる〔某〕すみかみ。とには。オホナムチノカミ。
少産 名 神 等 招 奉 拜 白
スクナヒコナノカミたちを。れきまつりて。をろかみまをさく。
皇神 醫 療 藥 業 禁 厭
すめかみは。やまひを。をさむる。くすしの。わさと。まごなひの。
術 惟 神 定 給 靈 異 法
みちとを。かむなから。さためたまひ。くごひなる。のりを。
授 與 天 下 億 兆 惠 救
さつけ。あたへて。あめのしたの。ひとくさを。めくみ。すくひ。
助 給 大神 等 成 以 乞 祈 記
たすけたまふ。れはかみたち。なるをもて。こひのみ。まつらくは。

已或誰此頃枉神枉事何
 れのれ「またはたれ」このころ。まかかみの。まかとのや（なにの）
病篤痴惱やまひにて。あつられ。なやみ。うれひ。こやせるに。よりて。
醫師事謀頼服藥養生雖くすじに。とはかり。たのみて。くすりのみ。やとなひ。ぬれとも。
猶今日なほも。けふよりは。こころを。きよくして。すめかみたち。
厚誓あつく。ちかひて。いのりまつる。まこころを。あひうつなひ。
給靈妙大功徳令蒙給たまひて。くすひなる。れほみいさをを。かかふらしめ。たまひて。
速令徳給一念乞祈すみやかに。いらしめ。たまへど。ひとすちに。こひのみ。
奉憐助給畏畏まつらくを。あはれみ。たすけ。たまへど。かこみかこみも。

白
まをす

同 畧 辭

○くすじ。みれやの。れほかみ
醫藥 御祖 大神

「須美屋かに伊やしたまへと飛たす良に祈る心を神波宇久良舞

〔五〕 安産守護神拜辭

掛卷 稻生 内 花 木 宮 地
 かけまくも。いなふのうちなる。はなのきの。みやとこに。
鏡座 加和良 皇 神 拜 白
 しつまります。かわらの。すめかみを。をろかみまをさく。
文 畏 木 花 咲 耶 姫 神 息 長 帶
 あやにかこも。コノハナサクヤヒメノカミ。イキナカタラシ

姫命 武内宿稱命 神等
ヒメノミユト。タケシウチノスクチノミユトの。かみたちは。

風音 遠 神代 昔 奇
かせのとの。とふき。かみよの。むかしより。くしひなる。

御功績 備 座 世 蒼 生 愛
みいさをの。そなはりるまして。よのあをひとくさを。めて

守 給 大神 等也 故 茲 明治
まもり。たまふ。ねほかみたちなり。かれ。こゝに。めいちの。

御世 至 其 自聖朝 式 内 神
みよにいたり。そのつかさよりは。のりのうちなる。かみの。

本 社 公 認 改 被 定 其
もとつやしろと。ねほやけに。あらためされたられて。それより

以 後 猶 御神威 日月 仰 信 徒
このかたは。なほも。みいづを。ひにつきに。あふく。ともからの。

相 増 又 諸人 往 古 子 安
あひまして。またもろひとは。そのむかしより。こやすの。

守護神 崇 尊 奉 事 彌 益 々
まもりかみと。あかめ。たふとみまつる。とのいやすすくなる

因 大神 一 層 嫁 婦 良 子 腹
によりて。ねほかみには。ひとかさ。よのをみな。よきこをばら

胎 産 事 妙 神 慮 垂 惠 給
みて。うむとに。たへなる。みあころを。たれめくみたまひて。

奇 産 靈 幸 賜 實 事 我 等 慕
くしきむすひを。さきはへたまふ。まさことを。われらも。したひ。

願 祀 乞 祈 白 妃 又 室 妻 此
ねきまつりて。こひのみまをさく。〔某〕みめまたは。つま。この

頃 孕 身 成 皇 神 等 主 司
ころ。みこもりと。なりぬれは。すめかみたちの。しり。つかさ

給 御 靈 徳 神 驗 授 與 守
どり。たまふ。みいさをの。みくるを。さつけあたへて。まもり

幸 給 大神 社 司 事 謀
さきはへたまへと。ねほかみの。やしろつかさに。とはかり。

御守札 受 日殊 敬 記 情實
 みまもりふたを。うけてひにけに。るやまひまつる。さまを。
 相諾 給 連月 祀 日 子 日
 あひうつなひ。たまへど。つきとの。いのりひなるねのひに。
 祈奉 更 又 九月 月 定 例 御祭
 のみまつる。さらなり。また。なかつきの。ためとなる。みまつり
 日 殊 譯 御恩 類 厚 敬 奉
 のひには。そわけて。みたまのふゆを。あつく。るやまひまつる。
 信 心 思 召 産子 始 孕 身
 まとおころを。れもほして。うみこを。はじめ。はらめるみに。
 至 迄 惱 苦 事无 安 和
 いたるまで。なやみ。くるしむとなく。やすらかに。にこやかに。
 障 事无 連 美 愛 良 具 兒 令 産
 さはるとなく。すみやかに。うるはしき。よきまなこを。うみ
 竟 給 仰 祀 情 狀 哀 聞
 れへしめ。たまへど。あふきまつる。さまを。あはれど。さよし

食 晝夜無差 守 幸 給
 めして。よどなく。ひとなく。まもり。さきはへたまへど。
 畏 畏 乞 祈 奉 白
 かしまみかしくも。こひのみ。まつらくと。まをす

同 畧 辭

加和良 子安 大神
 かわら。こやすの。れはかみ

「さつか理し子を安かれと腹帯に掛けて祈る花の木之神

(六) 同出産後長命神拜辭

掛 卷 恐 加和良 皇 神 等 拜
 かけまくもかしこき。かわらの。すめかみたちを。をろかみ
 白 我等 晝 月 大神 靈 驗
 まさしく。われら。ちのつちより。れはかみの。みしることを。

乞祈記 其神幸
こひのみまつりしに。けにや。たふとくも。そのかんさちを。
受種 無恙 良子 命誕生 給
うけて。れたひに。つつみなく。よきこを。うまじめ。たまひ
しより。以來 母子 泰平 健
このかたは。ははもこも。たいらかに。すこやかに。
日立 命 榮 早 名付 過 因
ひたち。さかへしめて。はや。なつけをも。すきけるによめて。
今日吉日 皇國 掟 傳 來 百
けふのよきひを。みくいの。れきてと。つたへくる。もひ
十日 氏子 入 參 宮 日 祝
あまり。どふかの。うちこいりなる。みやまひりひと。いはひ。
定 其 嬰 子 名 元 守 札 裏
さためて。そのみどりこの。なを。もどつ。みまもりの。うらに。
書記 是 辰 納 奉 永 久
かきしるし。これをもどし。をさめまつりて。なかく。ひさしく。

御祠 内 齋 被 記 事 稽 生 神
みほこらの。うち。いはひ。まつられんことを。いなふの。かむ
官 委 托 又 其 相 殿 座 長 命
つかさに。ゆたねて。またその。あひとのにます。なかいきを。
守 給 神 武 内 宿 稱 命 御
まもりたまふ。かみなる。タケシウナノスク子ノミコトの。み
聖徳 仰 奉 親子 諸 共 壽 命 延 長
いつを。あふさまつりて。れやく。もろとも。いのちの。なから
んことを。乞祈 記 此 以 後 累 年 記
ひには。殊更 敬 奉 赤 心 慈
くしみ。たまひて。よのまもり。ひのまつりに。まもりめくみ。
幸 給 恐 恐 拜 奉
さきはへたまへど。かここみかここみも。をろかみ。まつらくと。

まをす
白

同 畧 辭

○ 加和良 長壽 大神
かわら。なかいきの。れほかみ

「生れ子の名附も過て大神に千年のなはひ祈る嬉しさ

(七) 宅内ノ神棚並氏神拜辭

掛 卷 恐 我家 神棚 齋 祀
かけまくも。かしこき。わかいへの。かみたな。いつきまつる
八百万 神 等 亦 巳 氏 神 拜
やほよろつの。かみたちを。(またはれのれうこのかみ)をろかみ

白 皇 神 等 日 殊 心 安 守
まをさく。すめかみたちの。ひにけに。うらやすく。まゆり
幸 慈 撫 給 御 惠 爲 報
さきはへ。いつくしみ。なてたまふ。みめくみに。むくひまつ
謝 海 山 成 出 品 々 御 饌 物
らんとして。うみやまに。なりいつる。くさくの。みけつものを。
雙 備 敬 献 供 事由 平
ならへ。そなへて。るやまひ。たてまつる。さまを。たいらげく。
安 聞 食 家 内 男 女
やすらげく。まこしめして。いへのうち。をどこをみな。
小 見 至 迄 夜 守 日 守 守
さなこに。いたるまで。よのまもり。ひのまゆりに。まゆり。
幸 給 白
まはへたまへと。まをす。

同 畧 辭

○わか。我神棚座。諸。もろくの。大神

○れのれら。巳等氏。大神。れほかみ

「八百よろす齊ひ奉れる神たちを朝な夕奈に祀る茂る人

「千波ひ麻す我氏神の御恵を彌都幾くに報い麻津羅舞

〔八〕 先祖神靈拜辭

是御靈舎。齋。祀。神等。始め。とほつ
これの。みたまやに。いはひまつる。かみたちはじめ。とほつ
御祖代々親神等御前。敬。白
みれや。よの。れやかみたちの。みまへに。るやまひ。まをさく。

世々次々に。家名相續。朝。夕。々々。つぎくに。いへのなをあひつきて。あしたゆふへに。
其受得。職業。无夜。无日
そのうけえたる。なりはひのみちを。よとなく。ひとなく。
不緩。不怠。勵。令仕奉
たゆまず。をこたらず。いそしみ。つかへまつらむるも。
靈魂。神幸。深。御功績。仰尊
みたまの。かんさちと。ふかく。みいさをを。あふき。たふとみ
まつりて。親族家族。神靈等。御前。御饌
まつりて。うからやからの。みたまたちの。みまへにも。みけ
御酒。始。海物。畑物。稻。水。堅。盥
みきを。はじめ。うみつもの。はたつもの。なほ。みつ。かたしほに。
至迄。數種。供奠。御恩。頼
いたるまで。くさくを。そなへまつりて。みたまのふゆに。
報謝。奉。事由。聞。食。猶。家。内
むくいまつらんとするさまを。まことしめし。なほも。いへぬちを。

恵 和 睦 無喪事 守 幸
めぐみて。にきひ。むつひ。もなくとなく。まもり。さきはへ
給 子 孫 八十 積 茂 如八桑枝
たまひて。うみのこの。やそ。つつきに。いかし。やくはらの
令立 榮 給 禮 奉 白
とく。たちさかほしめ。たまへと。るやまひ。まつらくと。まをす

同 畧 辭

遠 御祖 代々 神靈 拜 白
○とはつみれや。よしの。みたまを。れろかみまをす

「遠都祖代々のみたまを今母猶るますかとくつかへ祀良舞

明治廿七年七月十七日印刷
全 年七月十八日出版

定價金 五 錢

著作兼
發行者

三重縣士族
稻 生 穂 積

同縣伊勢國奄藝郡稻生村
大字稻生二百五十四番地

印刷者

三重縣平民
小 寺 庄 三 郎

同縣同國津市大字
築町三十六番屋敷

發兌所

同縣奄藝郡稻生村二百七十三番地
稻 豊 館

印刷所

同 神 社
社 務 所

